

## 優良看護職員茨城県看護協会会長賞に原口さん

城西総合健診センター部長の原口令子さんが、令和2年度の優良看護職員茨城県看護協会会長表彰を受けました。今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、水戸市で行われる予定の県看護協会総会が中止されたため、7月1日に健診センターで仲間たちが集まり、青木由美・城西病院看護部長から表彰状や記念品が手渡されました。

原口さんは、「人と接するのが好き」と38年前に看護師となり、26年前に城西病院に入職。「臨床看護で勉強をしたい」と、最初は整形外科病棟を担当しました。

当時、国道4号バイパスが開通したところで、バイパスで大きな事故が発生しました。「重症を負った男性が運び込まれました。早朝で、運び込まれたときは意識がいましたが、数時間後に亡くなりました。4.5時間前に奥さんと子供に『行ってくるよ』と元気に家を出たのに。でも私は何もすることができない。駆け付けた奥さんと子供に寄り添うことしかできず、無力感を感じました。ただ、その時の支えになることができればと思っていました」と振り返ります。

その時は幼い姉妹2人の母親として、子育てにも多忙を極めていました。「長女は保育園の3年間、必ず家の鍵を持って行きました。鍵っ子ですね。夜勤などをやって、子供に寂しい時間を過ごさせていたと感じていた。でも子供の手紙に『がまんしていないよ』と書いてありました」と語ります。その長女は今、達生堂グループの社会福祉法人で看護師として活躍しています。



整形外科病棟から産婦人科を経て、健診センターに異動となりました。「いずれは臨床に戻りたいと思っていました。

しかし、予防医学に携わっているうちにその大切さを実感し、やりがいも学びました。医療以外にも学ぶことがいっぱいです」と語る。

「病気になる前の一歩手前のサポートが大切。年に一回しか会わない人も安心して話ができる看護師になりたい。そして素晴らしい協力体制のスタッフに囲まれていたから」と笑みを浮かべます。

2020年7月4日

©Tasseido group

城西総合健診センター責任者として予防医学に尽力

